

JHF理事会議事録

日 時： 2022年1月14日(金) 13:10～16:25

場 所： JHF事務局会議室(北区中里11-1-1-301) /ZOOM 会議

1. 議長・議事録作成人指名

議長：橋田明夫 議事録署名人：出席理事監事全員

2. 定足数確認

出席【理事】

安田英二郎 芦川雄一郎 小林秀彰 大沢 豊 竹村治雄 山口隆文 濱田 革
オンライン(ZOOM) 橋田明夫

【監事】大森健一

(出席理事8名 今理事会は定足数を満たし成立した)

欠席【監事】岩村浩秀

3. 理事・監事の一言

大沢理事：3年ぶりにHG日本選手権が成立した。

山口理事：上級タンデム技能証の更新の年となる。多くの方が受験することが予想されるが、各会場で10人以上になるかは不明。定足数10名に満たなくても開催する必要がある場合もあり、結果として赤字になることも予想される。

上級タンデムの教本の改訂を行う予定であるが、進捗状況は思わしくない。

2月26、27日に教員検定の学科試験を予定、一人でも多くの合格者を出すべく事前講習会を開催しており、その関係上赤字が出る可能性がある。

4 審議事項

第4-1号議案 HGクラスV日本選手権開催地の承認について (大沢理事)

茨城県石岡市・足尾エリアにて4月7日～10日にハンググライディング・クラスV日本選手権を開催することで承認をお願いしたい。

結果：理事全員一致（議長を除く8名）で承認

● 緊急事態宣言が出た場合の対応について

PG競技委員会から、大会開催可否判断について、公益財団法人日本スポーツ協会「国民体育大会開催における新型コロナウイルス感染拡大防止に関する基本指針」の中で「申込済み参加都道府県数の1/4以上の参集が困難なとき」を基準としている報告を受けた。

大会やイベント、検定会、講習会等の具体的な基準や中止の決定は、ハング・パラ競技委員会と大会実行委員会、開催主催者等に委ねることとする。

5 協議事項

第5-1 12月理事会議事録確認

第5-2 2022年度JHF事業方針

【小林副会長】

・制度委員会、競技委員会関連

PG、HG共通のJHF日本選手権規程がない。必要ないか？

〃 の世界選手権派遣規程がない。必要ないか？

(助成金の支出根拠もない)

・結論 HG、PG競技委員会に叩き台を検討するようお願いする

・議論

安田：規程は作る方向で議論する方向で進めるとして、どこが作るのか

小林：競技委員会で擦り合わせをして制度委員会に上げる方針がいい。支出規定もある方が望ましい

山口：大会は実行委員会が主体となって行うが、規定がないので曖昧な部分が多く問題がある。大枠だけでも作るべき

・現在「20歳未満」と表記している規程や書類を「未成年」と置き換えるか制度委員会から出た

・結論 規程を置き換える手配は制度委員会に進めてもらう

・安全性委員会関連

事故データベースの分析方法の検討

統一された分析方法がない。分析フォーマットは必要ないか？

・結論 事故報告は現在「教員の義務」であるが、フライヤーも簡単に事故報告をできる制度の検討を行う

・議論

竹村：ヨーロッパではフライヤーがオンラインで簡単に事故報告できる環境がある

安田：フライヤー自身が簡単に報告できるようにすべき

芦川：事故報告が現状の件数であれば、自己分析のための母数が余りに少ない

小林：安全性委員会で検討してもらう

以上の課題は各委員会の方針で、理事会課題としては下記項目の事務局システム構築、データベース構築、白書の作成と40周年行事検討となる。

・事務局の省力化、将来への経費削減のための投資

データベースの再構築

専門家の委員会は必要ないか？必要なら予算を付ける。

リモートワークの推進

各種書類等のオンライン発行

事務局のスモールオフィス化の検討

(最終的にはどのくらい費用がかかるかの算出と予算化が必要)

・結論 データベースの再構築を進めることで検討

・議論

濱田：フライヤー登録のスマホ利用サービスの活用も併せて行いたい。事故報告も載せれば活用の幅が広がる

小林：特別委員会の設置が必要ではないか

山口：ログインをしてフライヤー自身が申告、訂正ができる部分と、事務局のみができる部分を分けられどうか

安田：こうしたいという全体イメージを掴むのが先では

芦川：希望を出して優先順位をつけて予算を割り振る必要がある

大沢：現在当方に保管中の紙ベースのデータ量が多い

竹村：現在はスキャナー読み込みでOCRテキストになるので検索できる。とにかくスキャンする

濱田：システムの全体像の検討案を作成する

・JHF白書編集作業（歴史編纂、他）

何年も出来ていない重要課題

ボランティア編集者の募集は必要ないか？

JHFで出来なければアウトソーシング 見積、予算化が必要

・結論 作成の方向で進める

・議論

小林：作成するとしてどの程度の予算を回せるのか

芦川：全体的にみて優先順位をつけて予算組みをしたい

・JHF創立40周年記念行事の開催について

・結論 2022年開催に向けて取組む

・議論

山口：対外的なもの和对内的なものがあるが

安田：やるなら対外的なものでメディアの注目を引くものが良いのでは

小林：やはり人の集まる東京などで開催するのがいいのではないか

【山口理事】

・JHFの登録制度についてフライヤーが登録する県連を自由に選択できるようにするべきでは

・結論 継続して協議していく

・議論

山口：県連目線とフライヤー目線では全く違う判断になる場合もあるが、より実情に沿った登録方法を取るべきでは

安田：全く自由というのではなく、活動する場所の県連とかの条件をつけるべきでは

濱田：制度にはメリットとデメリットがあるので、それらを出し合い継続して協議していくべきでは

山口：フライヤー登録制度変更の主旨や仕組み案を作成する

【竹村理事】

安全性委員会は例年通りの施策を遂行するように計画しており、特に新たな予算を必要とすることは今のところない。

【大沢理事】

ハング競技委員会は、昨年同様の施策を継続していきたいので、新たな予算を要する施策は現時点ではない。

【濱田理事】

- ・パラ競技委員会
 - ・ HP運営、大会募集・開催、ルール・スコアリングの検討
 - ・ アキュラシーでも、リアルタイムで結果公表
 - ・ J2リーグ大会で赤字が出ないように補助（委員会予算）
（2021は2大会のみだったため定員に達したが、2022の参加動向不明）
 - ・ フライヤー登録データを大会選手データに活用希望
 - ・ハング・パラ振興委員会
 - ・ フライヤーボイスの更新、学連新歓パンフ、飛ぶのをやめた人の調査
 - ・ J H F レポートの充実。一般人向け、フライヤーからの投稿(海外との比較)
 - ・ 一般へのPR活動
 - ・現場での意見や感じたこと（尾神、朝霧、筑波エリア）
 - ・ ハング、パラとも年配者が元気、始める人も多い
 - ・ パラに比べハングに若者が多い（足尾エリア）
 - ・ フライヤー登録システムの遅れ（多数意見あり）
 - ・ 資金を確保する取組必要（デザインの良いグッズ販売）
 - ・次年度以降の取組・予算への提案
 - ・ フライヤー登録・入金、大会選手データ、各エリア入下山チェックなど総合的なシステム開発、スマートフォンでの運用、入山チェックソフトを各エリアへ配布など
 - ・ HPをスマートフォン前提としたものへ刷新
パラ競技委員会とハング競技委員会のHPの共通化。
- これらは、既存ユーザー（フライヤー）へのサービスの充実、事務局業務軽減に繋がる
また昨年の総会での「大会に出ないフライヤーに恩恵なし」「具体的な計画を！」との意見にも対応
- ・ フライヤー勧誘の宣伝等は、若年層、中年層、高齢層別に取り組むのが効果的
 - ・ ハング・パラ大会の一般社会への露出が重要（オリパラでマイナーな競技にも人気）
ライブトラックの活用。選手目線の映像。競技の分かり易い説明（画像、パンフ等）
手弁当では限界あるので、予算つける。競技委員会・振興委員会で連携
 - ・ システム開発やライブ配信等に外部資金（公的補助金、クラウドファンด์）を活用
経済産業省IT導入補助金、内閣府（公益法人向け）、総務省（マイナンバーカード関連）、国土交通省（ドローンや航空機との接触対策として、全てのフライヤーにライブトラック整備）等を検討したい

6 報告事項

6-1 予算実績表

6-2 フライヤー会員数、技能証発行件数

この議事録が事実と相違ないことを確認し記名押印する。(出席理事)
理事

芦川雄一郎 印

大沢 豊 印

小林秀彰 印

竹村治雄 印

橋田明夫 印

濱田 革 印

安田英二郎 印

山口隆文 印

監事

大森健一 印

議事録作成 橋田明夫